

〔翻 訳〕

『スペクテイター』 (58)

—第550号から第559号—

門 田 俊 夫

第550号 1712年12月1日 (月曜日)

【アディソン】

見とれるほどのどんな大きなものを
彼は生み出したのか。(ホラティウス)¹⁾

私がしばしば自分も所属していると言って来ましたクラブが解散してこの方、新たにクラブを立ち上げて欲しいといの嘆願や勧めの手紙を寄せてくれる人が大勢います。けれども、この機会に乗じるいくつかの婉曲的で秘密の策がうごめいているのは如何なものかと言わざるを得ません。ある田舎の紳士はサー・ロジャーの死の情報が入ると金品をちらつかせ始めました。もし故人の代わりに自分を選んでくれたら、私がこれまでに飲んだ分量に相当する十月エールを贈ると言って来たのです。ご婦人方は私がウィル・ハニコームの後釜に誰を選ぶかしきりに知りたがっています。実際、ご婦人方の中にはハニコーム氏は女性たちの関心事に配慮が足りなかったので、今後は女性の代表が望ましいと考えている人たちがいます。ワイ・ジューと署名する市民によると、アフリカ会社²⁾の株を21株所有しており、彼はこの信用度は上がると思っているのですが、自分がサー・アンドリュー・フリーポートの後継者になれば私にそれを譲ると言うことです。ジェニーマン・コーヒーハウス³⁾を発信地としたセントリー大尉の後釜を狙う紳士たち、また、セント・ポール教会近くにあるコーヒーハウス⁴⁾を発信地とした、私が必ず特別の敬意を払った尊敬すべき友である牧師の後釜を狙う紳士たちからの手紙を何通か受け取っています。

以上のような点ならびに私に寄せられる多くの忠告を熟慮し、さらに、もし私一人がすべてを選出するととなると、その役目はどれほど不快なものか、そしてまた、こういった雑音に不承不承従うとなると、必ずやえこひいき、不正、腐敗といった私が嫌悪することに反対の声が上がることになるに違いないと考えましたので、つぎのようなクラブの企画を

1) ホラティウス『詩の技法』138

2) アフリカ会社はイギリスから布地や他の商品を輸出し、アフリカで新世界向けの黒人を買収し、西インド諸島から砂糖を輸入した。

3) ジェニーマン・コーヒーハウスは、第403号にも登場する。

4) このコーヒーハウスはおそらくチャイルドと考えられる。

練り上げました。

ロンドンおよびウェストミンスター両市に設立されているすべてのクラブに文書を出すことを考えたのです。そして、それぞれのクラブから最も優れた人物を選出していただき、その名前を私が審理を予定している告知日までには知らせていただくことにしました。

こうすることで、私が座長を務めることになるクラブはすべてのクラブの精髓となることが期待出来るかも知れません。私はこの企画を、一般に地口として知られている巧みな機知を2、3度褒め称えたことのある気難しい友人にだけ伝えました。彼がただ一つ異議を唱えた点は、もし私が帝王のような振舞いをすれば、敵を作ることになり、私を中傷する人々は、私のことを通常の「観察者」という称号ではなく、「クラブの帝王」と呼ぶことになるだろうということでした。

しかし、私は企画を予定通り進めることにします。私が寡黙な人物としてこの仕事を始めたことはよく知られています。そして、私は寡黙をしっかり維持して来たと思いますので、ほぼ2年間というものの文を3つ以上連ねた記憶はありません。単音節語を私の喜びとしていますので、私の喋る会話は「はい」か「いいえ」以上の脱線はほとんどありません。このため、読者諸氏は、私は口にするのが嫌だったのですが、私の胸中にある素晴らしい考えを聞きもらしているのです。

そこで、私の性格に変化を与え、その気になればどれほど私が雄弁であるかを皆さんに示すために、現在検討中のクラブでは多弁になろうと考えました。これをもっと規則正しく続けることが出来るように、当クラブの最初の会合で、正式に口火を切る予定です。とはいえ、枢機卿の口開きの作法にある儀式は守る積りです⁵⁾。同様に、昔ピタゴラスが用いたやり方を吟味しました。彼の弟子たちは沈黙の見習い期間が過ぎると、発言は自由になったのでした⁶⁾。一方、めったにないことですが、最近、外国の新聞で私の名前を見つけましたので、「グレート・ブリテン」のつぎの記事では、「観察者は、来る3月25日に口を開くことになる」との記事が載ることは間違いないと思います。おそらく、厳かな儀式が進行するころには、これを支えてくれる人々に関する非常に有益な新聞を発行することが出来るでしょう。具体的なことは今後のこととなります。

第551号 1712年12月2日（火曜日）

詩歌の神性は誠に大きいもので、詩人には
それなりの敬意が払われた。(ホラティウス)¹⁾

観察者殿

立派で優れた才能の持ち主が美しく啓発的な作品で人々に喜びを与えるときは、人々は謝意を表明し、褒美としてその詩人を賞賛することになります。人間というものは、他者

5) これに関しては、第452号参照。

6) ディオゲネス・ラエルティオス『著名哲学者の生涯と教説』8.10

1) ホラティウス『詩の技法』400-1

をしのごうとする気高い努力に心が高ぶらないときでも、返礼をしないほど品位を落とすことはありません。最初は特定の人が口にする賞賛は、著者の長所次第でほかの人々にまで広まり、衰えることはありません。そして、賞賛に満ち溢れてきますと、賞賛という呼称は「名声」になります。幸いにも名声を得た人々は、中には誹謗中傷する卑屈な人たちがいますが、存命中であっても、人々の好評に煽られ、人々のための新たな仕事へと駆り立てられます。名声を得た人々が死去しますと、それまでの妬みから解放された彼らの人格は、より大きな輝きを持って輝き始めます。彼らの精神は作品の中で生き残るのです。彼らはこの上なく高潔な人々の仲間入りをして、何代にもわたって後世の人々を喜ばせ、教育し続けます。最も優れた者は皆に知られることで名声を手に入れますし、また、自分たちに払われる敬意を考えることで、人々の幸福と安寧を求めて努力する新たな熱意を獲得する者もいます。

ギリシアの才人たちの遺稿の警句のページをめくっていて、その多くが美しい詩的な功績で秀でていた人々の名声に捧げられたものであることに気づいて、私はこういった思いに駆られたのです。そこで、私の思いに即して、その警句を取り上げ、彼らの賞賛に新たな光と言葉を当てることにしました。私がそう考えたのは、才能を発揮すると妬まれたり誹謗されたりすることを恐れるあまり、逡巡している謙虚な人々を励ますためです。これは的を射た簡潔な賞賛の方法としてとって置かれた墓碑銘の形となっていることが分かります。

オルフェウスに寄せて、アンティパトロス作

オルフェウスよ、もはやあなたの聖なる調べは平原の石や木々や獣を導くこと
はない。荒れ狂う風を鎮めて眠らせることもないし、荒れ狂う海のうねりを
静めることもない。なぜなら、あなたは亡くなったのだから。

詩の女神たちは厳粛にあなたの死を悼む、とりわけ、あなたの母の歎きは大きい。
汝ら人間よ、もし女神が自らの命を救えないとしたら、あなたの息子たちが
あなたをいたずらに悲しむことになる²⁾。

この警句が書かれた当時にはそのように考えられたのですが、寓話を当然だと考えると、この言い回しには神々に対する敬虔の念とこれに専念することを断念する気持ちが備わっているように思われます。しかし、筆者自身はそう信じていたので、今回同ような調子で書く人々よりも高く評価されるかも知れませんが、この点を現代の知識に関連して考えて見ますと、さほど評価されないでしょう。

ホメロスについて、ミティリニのアルペイオス作

今でもアンドロマケの訴えが聞こえ、トロイの運命が見える。エイジャックスは
戦い、ヘクトルは捕えられる。ホメロスの歌には、こういった不思議な魅力がある。
彼の誕生は貧相な王国に単なる彩以上のものを添えることができた。なぜなら、
全世界は彼の誕生を誇りにしているのだから³⁾。

2) 『ギリシア詞華集』7.8

この前半部は自然なものであり、詩才が発揮されています。後半部はまるでホメロスの生誕地を競っている7つの町の歴史に狙いを定めているように見えます。だが、一般的に知られている結果になるものと思っていると、アルペイオスはそれをやり過ごし、いわば裁定者のために全世界を持ち出します。これは当事者間の争いに終止符を打つこととなります。

アナクレオンについて、アンティパトロス作

アナクレオンよ、この墓石はあなたのものだ。これに蔦の花輪をからませ、
一面を花で飾るのだ。素晴らしい賞によって肥沃になった大地から、
ミルクの井戸とワインの小川を生じさせるのだ。そこで、もし何らかの喜びが
地下の闇まで届くとしたら、あなたの亡骸はまだ喜びを知るだろう⁴⁾。

ここに記される詩人は、気楽で陽気な筆者です。そして、これを記す人の頭の中はこの人物のことで一杯になっています。彼はこのテーマがとても気に入っているようですので、彼の自由奔放な精神を理解することでまるで彼がまだ活着しているかのように、彼を楽しませることしか考えていません。その結果、気楽で陽気なものとなっており、アナクレオンのイメージが喚起させられ、彼自身が用いたと思われる言い回しをしています。私はこの墓碑銘をここに取り上げましたが、それは筆者が彼を称えるためにこれを作ったかも知れないからです。ここでは、賞賛する場合には、淫らな資質は注意深くすべて排除して、美点の真の根拠となるものだけに留めることをお勧めします。

エウリピデスについて、イオン作

類い稀なエウリピデスよ、私たちが目にするこの素晴らしい墓石は、
あなたのための記念碑ではない。あなたは記念碑におさまり切れないのだ。
なぜなら、誰もがあなたの名前を認めており、絶えることのない賞賛が墓石を
飾るのだから⁵⁾。

ここでの考えは立派ですが、短所は一般的になっていることで、個人の特徴を指摘していなく、偉人一般になっていることです。これを主人公の資質に限定するような何かと結びつけるとより素晴らしいものになるに違いありません。全体として賞賛してしましますと、往々にして、当該の人物に対してよそよそしくなるか、その人物に賞賛に値することを何も見出していないように見えます。

ソフォクレスについて、シモニデス作

柔らかな常盤木^{ときわぎ}よ、からみついて、ソフォクレスが眠る墓石の周りに陰を作っておくれ。香しい蔦がそなたの枝に巻きつき、はにかんでいるバラと密生するツルと絡み合う。そなたの変わることのない葉が覆いかぶさり、彼が歌った歌の心地よい表象となる。彼の魂は知恵の神のごとくミューズ9女神と美の3女神に囲まれて高揚するのだ⁶⁾。

3) 『ギリシア詞華集』 9.97

4) 『ギリシア詞華集』 7.23

5) 『ギリシア詞華集』 7.43

この警句はほかのどの警句よりも気に掛かりました。後半部に進むにつれて、思いは説明を必要とするほど、綿密に表現されているように思えました。通例、アポロンとミュージクたちについて想定されるイメージ、つまり、中央に豎琴を手にしたアポロン、それをミュージクたちが取り囲んでいるイメージをシモニデスは狙っているのだ、と私は考えました。私は見事だと思いました。読んでいるとき、原作の言葉からイメージが彷彿として来ましたので、敢えて一言付け加えておきます。

メナンドロスについて、著者不詳

ああ親愛なるメナンドロスよ、あなたの詩的靈感を味わうために、
ミツバチたちが群がる。あなたに、まさに美の3女神が姿を見せ、表現の核心を
教えたのです。こうしてあなたは今も生きながらえ、祖国アテナイに光彩を添え、
その栄光を天まで届かせているのです⁷⁾。

この警句は主人公に敬意を払っています。なぜなら、メナンドロスは著しく正確で純粋な言葉を使って書いたからです。国の繁栄が彼にかかっているように見せるために、この警句には詩人と国の栄光が織り込まれていますが、彼の生まれた国を隠さずに教えてくれます。

賞賛に値する人たちは時代が変わってもそうだとすることを示す具体例はこれ以上取り上げないことにします。これらの具体例を見ると、妬みは必ずしも流布しないのだということが分かります。作家たちがお互いの努力を活気づけるために、私流に賞賛の最も公正な気持とは何かを考えて見ます。確かにこれはとても難しいことです。賞賛というものは、寓話に頼ると軽薄なものになりますし、間違った資質に頼ると偽りになります。一般的になると何の意味もなくなり、公正さを保ちながら特性を高めようとするところの上なく賞賛しにくくなります。結びとして、カウリー氏の非常に優れた墓碑銘を書き写すことにします。ここでは、彼はある種の厳かで冷静な調子で、(世間から身を引き、世事にはすべて無関心な) 実際は亡くなっている自分について、実に見事に語ります。同時に、これは潔い別れ方となっています。

増大する人生の無用な心配から、そして苦役という責務から解放されて、
カウリーはここに眠る。このねぐらの下で、あらゆる世事には関心を寄せず。
貧しくても不平を漏らさず、安らぎのひと時もいたずらに過ごすことなく。
敵対者は富を公言し、誰もが憎む財を抱きしめる。彼が死亡したことに
間違いはない。ああ、今となっては彼の存在は何とちっぽけな土塊に過ぎないのか。
そっと埋葬され、あらゆる心配を追い払ってもらいたいものだ。お供えの花、
短命のバラが故人を生き返らせる。詩人の周りには香しい香りが敷き詰められ、
亡骸は命を与えられて輝くのだ⁸⁾。

以上の警句を公表したことで、とても聡明な紳士からつぎの手紙をいただくことになり

6) 『ギリシア詞華集』7.22

7) 『ギリシア詞華集』9.187

8) 第11号参照。

ましたので、新聞には間に合いませんでしたが、書物に掲載せざるにはられません。

観察者殿

第551号にて、ギリシアの才人たちが著名な詩人を称えて作った警句を拝見しましたが、貴殿に同じ詞華集から選んだ警句をもう一つ送らずにはられませんでした。この警句は、それまでの警句には見られないほどホメロスを称えたものになっている、と考えます⁹⁾。

誰が最初にあの名高いトロイ戦争と聡明なユリシーズの振舞いを書き写したのか、ジュピターよ、お教えてください。あの詩をあなたが書いたことは確かなので、これ以上、ホメロスを得意がらせることはない、あの詩は彼自身なのだ¹⁰⁾。

これが貴殿の思索に値するとお考えなら、おそらく、すでにギリシア語であるこれをそのうちに英語で活字になさるものと思います。

12月4日、貴殿を崇拜するジー・アールより

読者は、この警句の長所が前述のものとは異なっていることに気づかれるかも知れません。皮肉は賞賛に対する非常に繊細な弁解と考えられ、往々にして、風刺の仮面をかぶって最も気高い賛辞を伝えることとなります。ここでは、ホメロスは見た目には非難され、剽窃者としての扱いを受けていますが、非難の形で描写されていることは、確実に、わが寄稿者が気づいているように、この類い稀な詩人に与えられる最大の賛辞となっています。親愛なる観察者様

私はかなりの財産を所有している紳士であり、侮辱だと思うことには我慢ならない気質の持ち主です。しかしながら、争いはいつも法律に委ねます。剣とピストルという危険な方法で敵対者を攻撃するのではなく、令状や召喚状というより安全な方法で強襲したのです。訴訟理由の正当性か弁護人の優秀さによって、総じて上首尾に終わっていることをお知らせせざるを得ません。非常に満足していることに、名誉毀損の訴訟3件、侵害訴訟6件によって、ここ数年間、私の信望と財産は完全に平穏だと言えます。こういった訴訟によって、私は裁判官たちに知られる存在となっており、巡回裁判所の高等弁護士とは親友になり、飾りたてた弁護人は法曹界で際立った人物に深い敬意を払います。重要な業務で上京した私は、先日、物珍しさからウェストミンスターを訪れました。法廷に陣取って、楽しく過ごそうとしたわけです。裁判官と弁護人がしかるべき儀式にのっとり着席すると、学識ある紳士が立ち上がり、先回この一件で閣下をお騒がせしたとき、と口火を切りました。つぎの人物は謙虚に起訴を取り下げると申し出ました。また別の人は相手方が判決にかみついていたと訴えました。つぎの人は裁判官に顧客が財産を剥奪されていると告げました。別の人物は閣下に損害を負わされたと言いました。最後に謹厳な高等弁護士が立ち上がり、彼の顧客は誤審令状によって、すべての条項が棚上げされていたのだと伝えました。ここで、私はそれ以上我慢が出来なくなり、席をはずして、貴殿に彼らがこういった低劣で不自然な言い回しをやめるように口を差し挟んで貰うように申し出ることにしま

9) これは最初の8巻本と12折り本に収められた。

10) 『ギリシア詞華集』16.293

した。確かに、法律家たちはひどいフランス語や間違っただラテン語に署名するのですが、顧客にはもう少し上品できちんとした英語を使って欲しいものです。名声に価値を置く人物は、公の法廷の場で、誰某が「剥奪された」とか「負わされた」とか「棚上げされた」といった表現を使うわけです。これは貴殿の思索から漏れていますので、どうか専門職の人々の間で広まっているこういった教養のない隠語を使わないように矯正していただきたいと考えます。よろしくお願い致します。

敬具

11月28日、ジョー・コーヒーハウスにて¹⁾、フィロニクス

第552号 1712年12月3日(水曜日)

【スティール】

他者より優れている人たちは嫌われる。

もともと、亡くなると愛され祝福されるのだが。(ホラティウス)¹⁾

先日、貸し馬車で町を散策し、道の両側に並ぶ多忙な商店の光景を眺めていたとき、私はこれまで勤勉な人たちについてあまり触れて来なかったのではないかという良心の呵責を覚えました。この時、特にわが友ピーター・モットゥーへの義務を果たしていないことに気づきました²⁾。元羽ペンの仲間であったこの勤勉な商人は、紅茶の詩を献上してくれたことがあります³⁾。もし彼が貿易に携わる前に、こういった素晴らしい詩を書いていたのだと皆さんにお知らせしなかったら、実業家としての彼を傷つけることになります。彼に対する私の怠慢の罪滅ぼしをするために、私は直ちに彼を訪ねることにしました。広々とした倉庫には、紅茶や陶磁器やインド製品が詰まっており、壮観でした。全体として見事な配列になっており、ここで行われているさまざまな部門の取引が分かりました。私は詩の見出し順に並んでいるのを見て大変満足しました。ある場所には、さまざまな色合いの絹物や豪華な金欄や外国の織物が陳列されていました。ここでは、真っ白な手で繊細なレースに触れている姿、そしてまた、美しい目をした買い手がとても繊細なキャンブリックやモスリンやリンネルを選んでいく姿を目にすることができるに違いありません。私は友人が才能を慎ましくかつ有益に(そう願うのですが)活用していることに祝意を表さざるを得ませんでした。そして、彼が私を喜んで詩に歌ってくれたように、出来ればこの商売の後援者になりたいものだと言いました。この誠実な人が、利得に対しては富よりも素晴らしいものを理解する人たちに特有な控え目な願望を備えていることが私には分かっています。おそらく、彼は彼が暮らす地域で富と呼ばれていることには全く満足しないに違

1) ジョー・コーヒーハウスは別名ブルーコート・コーヒーハウスとあって、スウィーzing・アレイにあった。

1) ホラティウス『書簡詩』2.1.13-14

2) 第288号参照。

3) モットゥーの紅茶の詩はスペクテイター紙への献上として、トンソンが7月26日に出版していた。

いありません。そして、お客たち全員には彼の適度な願望でもって接するのです。

優れて勤勉な人たちに関連して怠慢であったと思っている点がいろいろありますが、その中でも、オルガン製作者のレナタス・ハリス氏からしばしば寄せられていた提案を黙殺していたことを認めざるを得ません⁴⁾。この職人の宿願は、セント・ポール大聖堂の身廊の西入口の上に、これまでにない技を込めた壮大なオルガンを据えることです。明快な言葉で述べられている提案には、これまでにないほどの力強い説得力だけでなく、イギリス人特有の誉れと利点が伺えますので、非常に尊敬に値するものと思います。技術あるいは趣向がなく、ひたすら私たちの悟性を一時停止させたり損なわせたりするだけのオペラに費やされている巨額のお金をこれに充当させていれば、今頃はおそらく、当面の気掛かりや不幸を忘れて、これから先の永遠の歓喜やハレルヤを願うお祈りの場に集まった人々の半数の心を即座に感銘させる装置を持っていたに違いありません。

このように公正に評価していると、科学と知識にとって有益な僕である私の知人の最高の職人ジョン・ローリー氏のことを忘れるわけにはいきません。みなさんに彼の2つの新しい天球儀の提案をお知らせすることは私の大きな義務だと考えます⁵⁾。彼は前置きをした後で、つぎのように断言します。

天球儀では、ヘヴェリウスやカッシーニや天文学者フラムステイード氏やオックスフォード大学幾何学教授ハリ博士たちによる正確な観察、さらには、その他天球儀をより正確で有益にするために入手できるあらゆるものに基づいて、恒星を正確な経度と緯度になるように配置するように注意を払うことにする⁶⁾。

星座をすべて細密かつ今までとは違った特別な方法で描きこむために、星ひとつひとつの光と大きさにしたがって、裸眼でもそれぞれの等級がすぐ分かるように正確にはっきりと分かりやすく配置する。従来の天球儀では表せたことがないが、彗星の運行が分かるように、慎重に描写する。

地球儀では、従来のイギリスあるいはオランダの作図が間違っているために、アジア、アフリカおよびアメリカは全面的に書き換える。こうすることによって、制作者たちは

-
- 4) オルガン製作者のハリスは、1680年代にテンプル教会のオルガン製作をバーナード・スミスと競ったことで知られている。スミスの製作したセント・ポール大聖堂のオルガンは、1697年12月2日、レイスウェイク和約感謝の祈りのときに初めて使用された。スミスはオルガンの位置を巡ってクリストファー・レンと口論となり、パイプを一部省略したために、満足した結果にならなかった。
- 5) 器具制作者ジョン・ローリーは、のちにジョージ1世からマスターの称号が与えられ、1728年に亡くなった。
- 6) ここに挙げられている科学者は全員天文学に関わった。ヨハン・ヘヴェリウス(1611-87)はポーランド、ダンツィヒの天文学者で1500個の星を列挙したが、ハレー(1656-1742)ほど正確ではなかった。カッシーニ(1625-1756)はイタリア生まれでパリ天文台の台長で、土星の4つの衛星を発見したことで知られている。フラムステイード(1646-1719)はグリニッジ天文台初代台長で、彼の観察結果は1712年に出版された。ハレーは彼の名を冠することになった1682年に出現した彗星が再び出現することを予言したことで有名。彼は1703年にオックスフォード大学教授となり、1720年にはフラムステイードの後継として第二代グリニッジ天文台台長を務めた。

ある場所の緯度を10度、別の場所の経度を20度変更せざるを得ないことに気づくことになる。こういった大きくかつ必然的な変更のほか、他の地球儀で顧みられなかった多くの注目すべき国や市や町や川や湖を、最近の航海者たちの発見にしたがって書き入れることとする。最後に、熱帯地方で周期的に移動している貿易風、モンスーンおよびその他の風の道を目に見える形で表わすことにする。

この事業はわが国の名誉にかかわるだけでなく、数学にとって欠かすことのできない分野を促進する万人に有益なものとなる。そして、これを実現するためには費用がかさむので、この大いなる仕事を促進してやろうと考える紳士は進んでつぎの条件に同意していただきたい。

I. 制作者たちは、予約者にそれぞれ直径30インチの天球儀と地球儀をお渡しすることを約束する。双方ともすべてを興味深く飾りたて、星には金箔を施し、各首都は分かり易く明示し、構造、経線、地平線、時圏、および指針を正確に示し、関心がなく聡明な人が見てもそれと分かるものにする。これらは、制作者たちが求める額より15ポンド以上の価値がある。

II. 予約をしていただける人はこれらに25ポンド支払うものとし、用途はご自分用でも大学あるいは図書館とか学校への寄贈としてもよい。天球儀と地球儀の余白に紋章、氏名、肩書、所在地つまり住所を書き入れることとする。

III. 予約者は最初に10ポンド、完成してお手元にお届けしたときに15ポンド払うものとする。お届けは予約者が30名に達してから1年以内とする。お届けする順番は予約順とする。

IV. 入手後、30ポンド以下では他人に売却しないものとする。

V. 1712年12月1日から4か月以内に、予約者が30名に達しない場合は、お支払いいただいたお金は、請求のあり次第、テンプルバーの金細工商ジョン・ウォーナー氏が返却するものとする⁷⁾。

第553号 1712年12月4日(木曜日)

【アディソン】

かつて思慮を欠くことはさほどひどい恥ではなかったが、
これが今でも狂気じみた人たちを追い立てている。(ホラティウス)¹⁾

先週月曜日に公表した企画のお陰で、数多くの手紙が寄せられました。中でも、ある企画者からの手紙が目にとまりました。この手紙では、私の口を開かせる厳粛な儀式は多分大勢の見物人を引き付けることになるだろうと述べた後で、彼はこの儀式をより多くの人に見せるために、書籍出版業組合会館²⁾を借りると提案しています。会場の四方に敷席

7) ジョン・ウォーナーに関しては、第520号参照。

1) ホラティウス『書簡詩』1.14.36

2) 書籍出版業組合会館は、ラドゲイト・ストリートのコック・アレイの北詰にあった。

を設け、そこに人を入れることが許されるなら、自分が費用を持つとのこと。またある書籍商からは、とても謙虚に私が初めての口開きに行く話を印刷物にさせて欲しいとの陳情の手紙を受け取っています。私が招集をかけているこの厄介な事態に誰を同席させるかについて、クラブで大きな議論になっているとの情報が町のあちこちから寄せられています。3つのクラブではすでに選挙になっており、その一つは選挙をやり直しています。ライバルたちが私の沈黙につけいって、敵愾心を募らせていることが分かり、選挙結果をととても気遣っているからということ、何か危急事態が生じた場合には、私たちはおそらく約束の日までに会合を持つこととなります。また、事態が私の希望通りに進めば、おそらく会合は後日に延期せざるを得ないかも知れません。しかしその場合は皆さんにお知らせします。

一方で、正直言って、この大都市で本紙に関心が寄せられていることに大きな喜びを覚えています。同様に、グレート・ブリテンの遠隔地からも本紙のことで私をさとする手紙が届いていることを嬉しく思っています。中でも、ベリック・アボン・トウィードからの手紙には大いに満足しています。この手紙の中で、わが寄稿者は私がしばらくの間その地で行った任務を大庭園の雑草ひきにたとえています。彼が言うには、雑草ひきを1回限りしただけでその後やめてしまうのでは不十分だということです。この仕事は日々続けなくてはならず、ひととき奇麗になった土地もしばらくするとまた以前と変わらないほど雑草が蔓延ってしまうということです。別の紳士はいくつかの無法がすでに新芽を出しかかっており、私の姿が見えなくなるとすぐに、完全に成長してしまうだろうと言っています。彼が言うには、観察者の監視がなくなるとすぐに、確実にご婦人方の頭が突出することになるということです。また、すでに見慣れぬ人物がけた外れにつばの広い帽子を手に入れているのを見かけたので、私の新聞が消えて1、2か月もしないうちに、このつばの広い帽子がこの島に暗雲を投げかけるのは間違いのないことでした。私の手元に届いた手紙はいろいろありますが、つぎの手紙ほど素晴らしいものはありません。これは私が常々敬意を表しており、(内心誇らしく思っているのですが)私の思索を快く受け入れてくれている団体に所属する紳士諸氏の連名となっている手紙で、私は大いに嬉しく思っています。通常、詩人は自らの作品を出版するときには、出版する前に賞賛された詩のコピーを活字にします。それは賞賛を喜んでからではなく、支持者の的確な詩をふいにしないためです。私としましては、つぎの手紙を公表するに際して、同様の弁明をしなくてはなりません。寄稿者は私がほかの場合には総じて受け取る手紙の賞賛の箇所を抹消していると証言できるのですが、この手紙に関しては、私の思索に与えられる気前のよい賞賛の箇所は削除しませんでした。

観察者殿、11月25日オックスフォードにて

貴殿は完全に沈黙を守っているにもかかわらず、非常に愛想のよい友であり続ける方法を見つけておられます。貴殿のこういった交際は、幸運にもいつも趣味と余暇のある人たちを喜ばせ、多忙を極めている人たちを不快にさせることもありません。ホラティウスは彼の言う「幸福なひととき」³⁾に、政治のルールに気づき、彼の書物をアウグストゥスに

届けて欲しいと友人に申し渡すとき、「機嫌がよく、陽気であれば、読んで欲しい」⁴⁾と付け加えるように依頼したのです。貴殿は人々が貴殿の声を聞きたいと思っているとき以外は、決して口を開くことはありません。貴殿が沈黙を破るまで不機嫌でいられる人がいたらそれはそれでいいと思っています。ところで、いつの間にかこの手紙の本来の趣旨からそれてしまいました。本旨は、お世辞からではなく、貴殿に東洋の君主に対して用いられた挨拶、つまり、「ああ、観察者殿永遠なれ」⁵⁾と言える貴殿が発行する無比の新聞を称える誠実な人たちが、最近、フィロ・スペック氏と同様の不安に陥っていることをお知らせすることでした⁶⁾。要するに、彼らは貴殿が急に親友を派遣したことは貴殿の短い顔がこれで見納めになる前触れなのではないかと気遣っているわけです。確かに、私たちは貴殿がああ由緒あるクラブを解散するために取った方法に苦情を述べる正当な根拠は何も見つけれないに違いありません。そうです、あの牧師に値する人はいません。ウィル・ハニコムは信望を得ながらこれ以上独身でいることは出来なんでしょう。テンプル法学院の学者もクック⁷⁾に専念する潮時でした。サー・ロジャーの死は彼が人生において行った最も賢明なことでした。とはいえ、私たちが非常に優美で貴重な楽しみを失う危険にさらされると思うことは、大きな悲しみでした。私たちは朝の一杯を邪魔するものが何もなくなくなってしまい、コーヒーを口と耳の中間に漂わせるものは陳腐な新聞しかないと思うと悲しくなってしまう。そこで、私たちは貴殿とこういった別れ方をしないことにしました。貴殿の言い方をしますと、サクランボは今では市場に出回り、その季節は終わりかけていますので、今後の楽しみについて協議して、この美味な果物をいつまでも味わえるように乾燥させることにしました。こうすることで、元の水分たっぷりの風味がなくなることは認めますが、食欲がそそられ、初めて見かけるほかの果物よりも美味な一品となります。分かり易く言いますと、私たちの多くは貴殿に再審理をしていただくために、貴殿の作品を手にして、週に2晩会合を持ちます。私たちは集まると必ず貴殿の健康を祝して乾杯をし、散会するときは必ず一晩の向上に対して貴殿に感謝するのです。醜い顔立ちつまり醜悪クラブ⁸⁾もそうですが、私たちのクラブはほかのいかなるクラブよりも有益なクラブだと自負しています。観察者殿の仲間ということでは、その名高いクラブよりも私たちの方が明らかに優れた点の一つあります。なぜなら、醜悪クラブは時々貴殿が姿を見せることを自慢していますが、貴殿の話聞くことは不可能だからです。だが一方、貴殿が私たちと同席するときは、パエドリアが恋人に言うのと逆で、「あなたが留守のときに居る」こととなります⁹⁾。私たちは好きなだけ貴殿と話をし、貴殿も一晩中口を閉じることはあり

3) ホラティウス『諷刺』2.1.18

4) ホラティウス『書簡詩』1.13.3

5) 第537号参照。

6) 第542号参照。

7) 第2号参照。

8) 第17号参照。

9) テレンティウス『宦官』。第170号参照。

ません。貴紙に心からの敬意を表する会員相互の張合いから成り立っているクラブに貴殿が好意を寄せられることは間違いないと思います。私たちは貴殿のお人柄をとでも高く評価しています。敢えて言わせていただくと、私たち4名のような崇拜者はどこを探しても見つけることは出来ません。

敬具

ティーエフ、ジーエス、ジェイティー、イーティー

第554号 1712年12月5日（金曜日）

【ヒューズ】

私の卑屈な名前を空高く舞い上がらせ、名声へと飛んで行かせるために、新たな方法を試みなくてはならない。(ウエルギリウス)¹⁾

発音と動作に関するキケロからの小論²⁾だけでなく、つぎのエッセーは、つい先般、オルベウスの断章に触発されて『世界の創造者への頌詩』³⁾という詩を発表された聡明な著者のお陰です。

私の記憶によれば、「これまで可能な限り能力を張り巡らせた人は存在しなかった」と言ったのは名高いフランスの著者です⁴⁾。この主張が厳密な意味でその通りであるかどうかは問わないことにします。最高の教養を身につけた人々は多くの空間と活用しないでいるといつの間にか過ぎ去ってしまう顧みられることのない時間を追想することができ、人生をやり直すことができれば、もっと素晴らしいものにできると思い描く人がいるのだとさえ言っておけば十分であるかも知れません。

学問や芸術あるいはその他向上する貴重な点で他の人々を凌ぐような実例が示されますと、どうしてもこの率直な非難に目を向けざるを得なくなります。

わが国あるいはその他の国で見かける最も広範囲にわたる大きな才能が発揮されたものの一つが、ヴェルラム卿サー・フランシス・ベーコンの例です。この偉大なる人物は、並外れた自然界の力と思考の範囲と根気強い研究によって、驚嘆の念を持って見ざるを得ない夥しい知識を蓄積したのでした。彼の能力はそれまでの書物が明らかにした知識をすべて理解しているように思えました。そして、彼はそれだけで満足せず、人生をかけても一人では踏破できない程の科学の新しい足跡を遺しはじめました。そこで、彼は地図上の不完全な海岸線あるいは想定上の陸地のようなものしか書き留めることは出来ませんでした。彼の注目あるいは推測に基づいて研究をした後世の人たちがさらなる発見をして、確認することとなったのです。

優秀なボイル氏は私が述べている並み外れた才能を駆使することが神から託されたと思

1) ウェルギリウス『農耕詩』3.8-9

2) 第541号参照。

3) ジョン・ヒューズ。彼の詩は第537号の末尾で言及された。

4) ヒューズは彼の翻訳したフォントネルの『死者の対話』を思い出していると思われる。

える人物でした。数えきれないほどの実験によって、彼は前任者たちが述べた科学の略図の空白部分を大幅に埋めたのです。彼の人生は、神への崇敬の念だけでなく、さまざまな形状や変化を通して、とても理性的な自然の追求のために費やされました⁵⁾。

自分たちの能力を追求する研究にいかんなく発揮した数多くの人たちの名を列挙することは不可能でしょう。しかし、学識のあるわが読者なら、ここでまだ存命中であり、同様にわが国の名誉である第三の人物に思いを馳せることになります⁶⁾。彼は自然および数学的な知識においてほかの人々が行なった進歩を大幅に向上させ、人間の持つ能力の素晴らしい実例と同時に尽きることのない探求心を示しました。まさに、「たとえ、知者があって、神のもろもろのわざを知ろうと思っても、これを窮めることはできないのである」⁷⁾という聖書の言説の通りなのです。

私はここで、以上の人たちとは別種のもう一人の人物について言及せざるを得ません。この人物は自然および適用の素晴らしい力を示し、私がこれまでに遭遇した中でも多方面にわたる才能を発揮した最も特異な人物です。私が言わんとしている人物はイタリアの画家レオナルド・ダ・ヴィンチです。彼は16世紀初頭に、トスカーナの高貴な家に生まれました⁸⁾。歴史画という点ではそれまでのあらゆる人より秀でていたと断言する人がいるほどの巨匠でした。彼が同時代人のミケランジェロの妬みを買ったこと、そしてまた、ラファエロが彼の作品を研究して、自らの画法を身につけたのも確かなことです。彼はまた彫刻、建築、解剖学、数学、機械学にも精通していました。アッダ川からミラノへの送水路は彼が考案したものと言われています。彼は数か国語を習得しており、歴史、哲学、詩歌、音楽に精通していました。本日の論点には必要のないことですが、彼のことについて書き記す人たちは全員、等しく彼の万能について触れています。彼の知力を示す例はほとんど信じがたいものです。彼は均斉の取れた優雅な人物だったということです。そして最後に、彼の道徳的な資質は彼の生来の知的な才能に見合ったものであり、物腰の優しい誠実で寛大な心の持ち主だったとのことです。ここで彼の話は中断しますが、これほどの非凡な人物が亡くなる時の注目すべき出来事によって一層際立ったのだということを知れば、読者の好奇心は満たされるものと考えます。作品の名声によって万人から尊敬された彼は、フランスの宮廷から招かれたのです。その地でしばらく過ごした後、病に侵されました。フランソワ1世が見舞いにやって来ると、訪問のお礼を言うために彼はベッドで身を起こしました。王は彼を抱きしめました。するとその時、気を失いかけていたレオナルドは偉大なる王の腕の中で息を引き取ったのでした。

こういった例に注目しますと、知識の進歩を可能にすることが出来、困惑することも混

5) ボイルに関しては、第380号、第531号参照。

6) ニコルスによると、この人物はニュートンとのこと。

7) 『伝道の書』第8章第17節。

8) これはヴァザーリによる。レオナルドがフランソワ1世の腕の中で死んだという逸話は確かではない。レオナルドはフランソワ1世の招きで1517年フランスに渡り、ロワールのアンボワーズに家を与えられたが、1519年5月2日に逝去した。

乱することもなく、さまざまな観念を受け入れることが出来る人間の精神の驚くべき力について熟考せざるを得なくなります。ここから神の創意を推定することは道理にかなったことだと思えます。思考力のない物質が永続的な自然の力が付与されている場合、それが全能の神によって無力化されない限り、それよりもはるかに優れた人間が同様の特権を与えられていないと考えることはどう見ても理屈に反することです。

同時に、私が言及した例から離れて、インド諸島の野蛮な人々についての報告書でしばしば見かける人たちのことを考えて見ると、非常に驚くべきことが分ります。インド諸島では、多くの人たちは理性をほとんど持ち合わせず、感覚と食欲以外には考えが及ばないように思えます。この地は広大な未開地、つまり、人間性が開墾されていない広大な土地のように思われます。こういった人たちと非常に高尚な芸術と学問を身につけた人たちを比較して見ると、両者が同じ種の生き物だとは信じられなくなります。

人間の魂はすべて生まれながらにして平等であり、しばしば見かける大きな不釣り合いは魂が結合されている体の組織つまり構造の違いから生じるのだと考える人たちがいます。しかし、最初に不釣り合いを生じさせるものが何であれ、つぎに生じる人々の間での取得物の大きな差は、教育、運命、人生行路といった偶発的な差のせいなのです。魂はダイヤモンドの原石のようなものであり、これを磨き上げるには技と労力と時間を必要とします。これらが欠けてしまいますと、多くの素晴らしい生来の才能は失われ、鉱山に眠る宝石のように洗練されないままとなります。

人々から尊敬される功績を上げたいと思わせる最も強力なものの一つは、栄誉を手に入れたいと考える生来の情熱です。この情熱が度を越しますと誤りを犯すことになるかも知れませんが、これを無くしてしまっただけではいけません。道徳家の中にはこれを厳しく抑制しようとする人がいるようですが、この情熱こそが魂の潜在能力を引き出す源泉であり、最も寛大な気質で最大限の力を発揮するのです。古代ローマで燦然と輝いた人たちは、この情熱に強く鼓舞されたものと思われます。キケロが学識によって母国に対して尽力したことは非常によく知られていますが、異常なほどにこの情熱に煽られた彼は、当時の歴史を書いていたルツケイウスに、執政官としての自分のことについて書いて欲しいと熱心に要請します。そして、自分が亡くなったあと与えられると思われる名誉を存命中に少しでも味わいたいの迅速にやっつけたいとの依頼をします⁹⁾。これが偉大な人物の大望でしたが、彼は限度をわきまえておらず、この時、この史家に歴史の厳格な法則を無視して、真実の限界を超えてまで自分を賞賛して欲しいと懇請せざるを得ません。小ブリニウスもまた名声に対して同様の情熱を持っていたと思われませんが、彼の場合はとても控え目で謙虚なものでした。彼に偉大な仕事に着手するように促してくれた友人に率直に打ち明ける彼のやり方は、実に素晴らしいもので、慢心という非難を浴びることがないほどそこには威厳がみなぎっています。彼は「正直に言って、ほかでもありませんが、私の名前を不朽にしたいと思っています。尊敬に値する人物、少なくともその端くれにでもなればと考

9) 『キケロ書簡集』 5.12

ています。自責の念に駆られずに後世の人たちに忘れられない人になりたいのです」と言います¹⁰⁾。

締め括るにあたりまして、読者の皆さん全員にこの件について関心を持っていただきたいと思います。そこで、誰もが学問あるいは洗練された技で秀でることは出来るわけではありませんが、誰もが何らかの点で秀でることは可能なのだという金言をお伝えしておきたいと思います。この点では、魂には完全に怠惰にしていることが出来ないある種の成長力が備わっています。魂は均整の取れた美しい庭に植えられ育まれないとしても、ひとりで大きくなり、芽を出し、花を咲かせるものなのです。

第555号 1712年12月6日(土曜日)

【スティール】

架空の人物を棚上げしておきなさい。(ペルシウス)¹⁾

初期の新聞で述べた架空のクラブの会員は全員つぎつぎに姿を消しましたので、スペクテイター自身もそろそろ舞台から姿を消さなくてはなりません。暇乞いをするにあたり、私はこの仕事に着手して以来日々感じていたよりも大きな不安に駆られています。詐称者と比べて見ると、実在の人物と話をする方がはるかに困難です。スペクテイターではユーモアで通用するものも、名前を作品に特定してしまいますと傲慢に思えます。架空の人物であれば、自分を認めない人たちを軽蔑し、相手の気分を害することなく自らの仕事の出来栄を激賞することが可能でしょう。自惚れて思い上がっていると思われずに、見せかけの大家を装うことが可能です。賞賛とか非難は、架空の人物に振り向けられるだけで済み、もし誰かが欠陥を見つけた場合は、古の哲学者にならって、「あなたは確かにアナクサーカスの事件を打ち負かした」²⁾のだと答えるかも知れません。私自身の個人的な感情を込めてお話しすると、ほぼ2年間にわたって公表して来ましたこの日刊紙を、読者の皆さんが優しく見守ってくださったことに素直に感謝の気持ちを表明せざるを得ません。

架空の人物にかこつけて自由気ままに発表して来た論考が大目に見られることを期待します。もし私がこれほど長い間認められて来た仕事を何故に維持できたのかその説明をしなかったとしたら、私にはこの上なくひどい自惚れ屋との汚名が降りかかるに違いありません。シー、エル、アイ、あるいはオウ、つまり、詩神 CLIO の署名入りの手紙が掲載された紙面はすべて、ある紳士から寄せられたものでした。この人物の助力については、以前にタトラ紙の序文と結びの言葉で自慢したことがあります³⁾。実際、彼との長年にわ

10) 『キケロ書簡集』5.8

1) ペルシウス『諷刺』4.51

2) ギリシア北東部にあるアプデーラの哲学者アナクサーカスは、キプロスの専制君主ニコクレアンから死刑を宣告され鉄のすりこぎで粉々にされたが、「アナクサーカスではなく、アナクサーカスを入れている袋を粉々にせよ」といってその刑を受け入れた(ディオゲネス・ラエルティオス『著名哲学者の生涯と教説』9.59)。

たる友情をととても誇りにしていますので、彼自身が創作できる著作の著者だとみなされるという名声を手にすることが出来るほどです。私が『心優しき夫』を書き終えたとき、彼に、私たちの友情を記念して、いずれ「記念碑」という名前で作品を発表出来ることを切に願っていると言ったことを覚えています⁴⁾。今述べていることが、ちょうど、学識と機知と人間性が読者に彼の作だとお教えした作品をもたらしているようにあの尊敬すべき人物に誉れとなることを切に願っている次第です。上記の芝居が先ごろ上演されたとき、その方から大きな喝采をいただきました。そのことに気づかなかった私が惨めに思われるほどでした。友人たちには彼に他の著述だけでなく劇作を発表するように要請して欲しいと依頼していますが、この場を借りて、読者に私の作品を最もよく理解するヒント、つまり、『心優しき夫』の支持者がイングランドあるいは海外にいるときに、最高の論評をすることが重要なのだとお伝えしておきたいと思います。

同時に読者は、エックスと記された紙面にお気づきのことと思います。これらは『悲嘆に暮れる母』の納めの口上を書かれた聡明な紳士のものです⁵⁾。匿名希望の紳士諸氏の同意を得た紙面もいくつか存在しました。私はほかの何よりも率直で誠実な振舞いを好みますので、自分に資格のない賞賛を手にするわけにはいきません。

私へのその他の援助は、匿名の人たちからの手紙、ある時には紙面全体、またある時には短い提案の形で伝えられました。この種の引き立てを確実に調べ上げることは不可能ですが、つぎの方々の名前を挙げることは出来ます。恩義を受けた順にこの方々の名前を挙げます。もっとも最初に挙げようとする方は優先に値しない一覧ではどうみても挙げることは出来ませんが⁶⁾。私が謝辞を述べたい方々は、ヘンリー・マーティン氏、ポー氏、ヒューズ氏、オックスフォード・ニューコレッジのカレイ氏、同クイーンズコレッジのティッケル氏、ケンブリッジ・トリニティコレッジのパネル氏とユースデン氏です⁷⁾。友人サー・アンドリュー・フリーポートの言い方をしますと、このようにして機知と学識に対して、債権者との勘定を清算しました。しかし、こういった素晴らしい仕事は本紙という手段がなければ光が当てられることはありませんので、私は皆さんにお伝えできるという利点を独り占めしていると言えるのかも知れません。

これ以上付け加えることは何もありませんが、この仕事は555号にまで膨れ上がりましたので、4巻はすでに出版され、残り3巻は印刷中ですが、合計7巻になることとなります。私がここで終わりにする理由は問われなんでしょう。とは言え、今後の過ごし方を説明する義務があるものと考えます。皆さんの私への支持がとても大きいままで引退しますが、これまでの書物は9千部以上にわたり、すでに売却済みです⁸⁾。1週間に枚葉紙半枚

3) CLIO はスティールに詩神の名前を連想させたようだ。

4) 『心優しき夫』は、1705年4月23日にドゥルーリー・レイン劇場で上演された。スティールのこの作品の前口上はアディソンが書いた。

5) 『悲嘆に暮れる母』の納め口上に関しては、第338号参照。

6) スティールは明らかにアディソンとバジェルのことを念頭に置いている。

7) 序文43頁から45頁参照。

の税が印刷局に入って行きます。当初は現在の税が課されるまでに通常印刷されていた数の半分足らずに減少していましたが、この1日の新聞で週にさらに20ポンド以上になるわけです⁹⁾。

今後私が出版するものにも引き続きご厚意を寄せていただけますよう謹んでお願い申し上げます。そして、今後降りかかるどのような苦しみや悲しみにも、勤勉によってそれに打ち克って行きたいと思っています。

敬具

リチャード・スティール

みなさん、ご機嫌よう。拍手をお願いします。(テレンティウス)¹⁰⁾

つぎの手紙は、私を仲間に入れてくださった聡明な紳士の皆さんに関係します。

観察者殿、1712年12月4日

ロンドンにこのほど設立された美術院では、貴殿を理事に選出しました。これまで観察者としての貴殿の関心を引き付けていた高潔な美術が貴殿にさらなる資格を付与することになり、貴殿は美術院を育てるために二重の責務を担うわけです¹¹⁾。

わが国の名誉はまた、これから述べることに関係します。私たちは(おそらく私たちだけでなく他国の人もそうでしょうが)国家としての虚飾だけでなく国家としての偽りの謙虚さを備えています。私たちは外国で出し抜かれている事柄ではどの国にも負けていないと自負しますが、他方で私たち自身が備えている優位性を他国に帰すわけです。このことは、特に肖像画の場合に言えます。

絵画の領域はとても広く、すべてを手に入れることは誰も出来ません。顔、歴史、戦い、風景、海の風景、果物、あるいはおどけ者を描くことで成功すればそれで十分です。そうです、いくつかの分野ではそれぞれ顕著な人はいましたが、すべての分野で秀でた人はこれまで誰一人存在しませんでした。

風景画が得意でも、顔とか歴史画をうまく描けないかも知れません。何種類かの絵画に秀でている国もあれば、それ以外の国も何かで秀でているかも知れません。

イタリアは歴史画、オランダはおどけ者や細やかな描き方、フランスは陽気で颯爽とした絵画、イギリスは肖像画で、それぞれ勝っているかも知れません。しかしそれぞれを称えることは、英雄詩、劇詩、叙情詩、風刺詩を称えるのと同じことです。

最大の才能、助力、刺激があるところでは、当然のことながら、最も素晴らしい作品が

8) スティールが8折本あるいは12折本のいずれか、または双方のことを言っているのか明白ではないが、1712年1月に出版された第1巻、第2巻のことに違いない。

9) この発言を文字通りにとると、1712年8月の税の値上げ後、スペクテイター紙は1600部から1700部印刷されたことになる。

10) テレンティウス『自虐者』『宦官』『ボルミオ』の幕引きの台詞。

11) 美術院の構想は元々タイヴリンが1682年に立てたが、サー・ゴドフリー・ネラー、マイケル・ダール、アントニオ・ベレグリーニ、ルイ・ラゲール、ジョナサン・リチャードソン、およびジェイムズ・ソーンヒルたちによって1711年秋に設立された。現在の王立美術院となったのは1768年のこと。

生まれるものです。これによれば、わが国は肖像画が当て嵌まります。世界のどの国を探しても、わが国ほど私たち自身、友人、縁者の絵が多い国はありません。このことは氣立てのよさからなのか、それとも、単に絵が好きのためだからなのかは分かりません。そしてまた、崇敬の念が純粹であり過ぎるために宗教画を描く気にならないのか、それともほかに何らかの理由があるためなのかも分かりません。わが国の助力はほかの国々より劣ってはいなく、むしろ大きいと言えます。イタリアの古代の彫像や浅浮彫りは歴史画家のものであり、イギリスに豊富にある美しく高貴な顔は肖像画家のものであります。おまけに、わが国はほかの分野でも優れた作品がありますが、肖像画に関しては数多くの作品に恵まれているのです。画家たちが何一つ不足を感じないほどにわが国の裕福で寛大な人たちが援助の手を差し伸べてくれるわけです。

それゆえに、事実、わが国ほど肖像画がさかんに描かれる国はほかにはありません。皆さんがお気づきかどうかは分かりませんが、私はまずまずの目利きだと自負しています。海外での様子を見て来ましたが、肖像画に関してはわが国が秀でていると請け合うことが出来ます。私の断言が真実であるかどうかは、賢明な立会人にお任せします。もし外国人がしばしばイギリス人より優れていることがあるとしても、その大半は彼らがわが国で目にした利点と彼ら自身の創意と勤勉のお陰であり、どの国も自国に有利になるほど顕著なものになっていません。フランスにしてもイタリアにしてもまたその他の国にしても、我々が身びいきしているとはいえ、長い間、肖像画では目立ってはいません。

栄誉はひとえにわが国にあり、この状態になって随分になります。その結果、肖像画を志す画家は、イタリアとかその他の国に行かずに、当然のようにイングランドで勉強することになります。肖像画家たちはオランダ、フランス、イタリア、あるいはその他の国からわが国にやって来ます。これはちょうどその他の種類の絵画を志す画家たちがそれに秀でている国に行くのと同じことです。敢えて言いますと、聖ルカの元に天から舞い降りた聖母マリアは実物どおりに描かれたいと願うと、イングランドにやって来るだろうとのこと¹²⁾。とりわけ、現在の会長サー・ゴドフリー・ネラーは、わが国にやって来てから頭角を現し、他の誰よりも見事な実績を上げておられると思います¹³⁾。

敬具

晴雨計その他の署名の入った独創的な手紙を受け取りましたが、遅きに失しました¹⁴⁾。追伸：スペクテイターの仕事を辞めたときには、気づいていなかったのですが、本日述べました意見はグレイズ・インのインス氏に負うところ大です¹⁵⁾。

R. スティール

12) この伝説の原典はテオドロス・レクトルの教会史 Anagnostes (c. 530)。

13) ゴドフリー・ネラー (1646-1723) は、1675年頃にドイツからやって来て、宮廷肖像画家として活躍し、1711年初代美術院長になった。

14) テレンティウスからの引用は二つ折り本のこの手紙に登場する。

15) 追伸は8つ折り本と12折り本に追加された。

第556号 1714年6月18日(金曜日)

【アディソン】

その青銅の光を煌めかせた姿は、ちょうど、毒草に養われた
蛇が光の中に現れるよう。寒い冬のあいだは膨れた体を地下に
隠していたが、いまは皮を脱ぎ捨て、若さにみずみずしく輝きながら
胸を立て滑らかな背をぐるぐると巻き、太陽へと鎌首をもたげ、
口から三又の舌をちょろちょろ出す。(ウエルギリウス)¹⁾

観察者としての職を辞めるとき、新たなクラブを立ち上げ、そこで厳粛に私の口開きをする計画を皆さんにお知らせしました²⁾。このほどクラブの立ち上げも口開きの儀式も終わりました。50年間におよぶ沈黙を打ち破ることは、最初想像したほど容易なことではありませんでしたので、何不自由なく喋れるようになるまではなかなかほかの人たちのようなふりをするには出来ませんでした。

私は今ではお喋りですが不似合いな一員であるクラブの沿革についてお話しするのは今しばらく差し控え、ここでは私の内部に生じたこの驚くべき変化について説明したいと思います。私はこの変化を「歴史」に記録されている実に目覚ましい出来事に匹敵すると考えています。そうです、私自身あのクロイソスの息子と同様に長年にわたって沈黙を守っていたのですから³⁾。

最初に口を開いたとき、私は巧みに表現されたおよそ6つの文からなるスピーチをしました。しかし、このスピーチで声がかすれてしまい、3日間というもの舌を使わず、完全に舌を無くしてしまったのではないかと思えるほどでした。おまけに、この時いつもになく筋肉を使いましたので、不屈の決意と辛抱強さがないと元の単音節語に戻ってしまうのではないかと思えるほど顔の左右が痛んだのです。

その後、私は話すことに関するエッセーをいくつか書きました。そして、一度ならず起こったことですが、自分の声に驚かないために、自分の部屋でそれを大きな声を出して読むのでした。また、誰もそばにいないと分かると、しばしば通りの真中で馬車を呼んでみました。

こうして次第に自分の声に馴染んで来ましたら、あらゆる機会をとらえて声を出すことにしました。話す内容とか、話しかける相手の注目を浴びるなんてことは気に掛けずに、しばらくは、毎朝マルを散歩して、フランス人たちの一群と一緒に話をしてきました。内気さはフランス人の話好きな気質のお陰で大いに救われました。彼らは大変社交的で、最初から打ち解けないと面白くない人物だと思ってしまうのです⁴⁾。

つぎに、私は女性陣との会話で大きな恩恵を受けるだろう、そして私が思考の妨げにな

1) ウェルギリウス『アイネーイス』2.471-5

2) 第550号参照。

3) ヘロドトス『歴史』1.85

4) アディソンはフランス人をこのように見た。

らないと、気安く喋れるだろうと考えました。そこで、女性たちの集まりに身を投じることにしましたが、どうしても言葉を差し挟むことが出来ませんでした。そして、相手を変えなければ、再び元の寡黙に戻ってしまう状態であることに気づきました。

それ以来、私が主に出かける場所としてはコーヒーハウスとなりました。ここで大きな変化を遂げました。話す相手と同じ意見にならないように細心の注意を払いました。バットン・コーヒーハウスではトリー⁵⁾、チャイルド・コーヒーハウスではホウィッグ⁶⁾に、その都度相手に合わせて、「イングリッシュマン」⁷⁾の味方になったり、「イグザミナー」⁸⁾の支持者になったりしました。実際は、フランス王を会話の手掛かりとして利用しているだけなのですが、中には私のことをフランス王の強烈な敵と考える人たちがいます。要するに、私は訓練のために論争したわけです。そして、徹底的にやりますので、私が優れた人たちになれなれしくし過ぎているように見えたのです。

一言で言ってしまうと、私はかつての私とは全くの別人となったわけです。「これほど似ていないものはない」⁹⁾のです。

かつての知人はほぼ私だと気づきません。それどころか、先日、ジョナサン・コーヒーハウスで、あるユダヤ人から、「貴方はこのコーヒーハウスによく来ていた無口な紳士と縁戚関係にあるのではありませんか」と尋ねられたのです¹⁰⁾。ところで、1週間ほど前くらい愉快だったことはありません。私が若いテンプル法学士とテーブルを挟んで論争していると、彼の仲間が彼の袖を引き、あの気取り屋の老紳士がどうしても話したいと言っているのでこの場を離れるようにと言ったのです。

今では私は会話にとっても堪能になっていますので、わが同胞が私の新たに獲得したお喋りの果実を収穫できるという一項を私の性格に追加して世間に姿を見せることにします。

大学での公開討論に参加したことがある人々は、議論のために異端信仰を主張するのが通例であることを承知しています。30分間とても生意気なソツツイーニ派教徒¹¹⁾だった人物が、その後終生正統派の教義を守ったと聞いたことがあります。私はこれと同じやり方をして、会話の才能を習得しようとして、聞き手というよりむしろ自分のために1年以上に渡って喋り続けたのです。しかし、今ではその能力を身につけましたので、今後はこの能力の正しい使い方をして、常に真実と誠意のみを語りたいと考えています。論争相手をやりこめるようになる間は、味方も敵も双方を相手にします。しかし、それを修得すると、正しいと思うことだけにそれを発揮するものです。

5) このコーヒーハウスはウォリック伯爵夫人の召使をしていたダニエル・バットンが開き、ホウィッグ党の人々の溜まり場となった。

6) チャイルド・コーヒーハウスについては、第16号参照。

7) 「イングリッシュマン」はスティールが「ガーディアン」続編として出したホウィッグ党の新聞。

8) 「イグザミナー」はトリー党の新聞。第367号参照。

9) ホラティウス『諷刺』1.3.18

10) ジョナサン・コーヒーハウスについては、第1号参照。

11) ソツツイーニ派は、イタリア人神学者ラエリウス、ファウスタス・ソツツイーニ（叔父と甥）が打ち立てた。この派は反三位一体を教義とした。

この言及が読者に本紙の意図に対する誤った考えを抱かせないために、筆者は党派性には関係なく、真実と美德の味方であり、敵対するのは悪徳と愚行だけなのだということをお知らせしておかなくてはなりません。私はこれまで以上に口うるさく言っていますが、今でも公平無私な観察者であることには変わりありません。ホイッグあるいはトーリーではなく、賢明で善良な人の数を増やすことが私の念願なのです。私としましては、両党派に共通の欠点が双方の特異な欠点にならないことを心から願っています。

「助言者が多ければ安全である」¹²⁾としたら、わが国は世界で最も安全な国家だと考えるべきです。ほとんどの屋根裏にはわが国の自由を見守る政治家が住んでおり、国民の財産を保護することで飢えないで済むように最大限の努力をしています。

このような双方の政治家がすでにわが国を異様な興奮状態に巻き込んでいますので、私はこれ以上それを助長するのではなく、むしろわが同胞に相互の友好と善意を吹き込むことをわが新聞の主要な視点にしたいと考えます¹³⁾。両党派が犯しているどのような欠点も、それは互いに投げかける非難によって取り除かれるというよりもむしろ一層煽られることになります。人々の振舞いを矯正する最も適切な方法は、真実と名誉、信仰心と美德という信条を奨励することです。これらの信条を忘れずに行動すれば、いかなる党派に属していようと、その人は必ず立派なイギリス人、愛国心に満ちた人物になります。

以上のことに関わる人物に関しては、そういった人物あるいは少なくともその気持ちを抱いている人物の名前はいずれ公表したいと思います。その時までは思いやりのある読者には好奇心を先延ばしにさせていただき、それを書いている人物というよりもむしろ書かれている内容に目を向けていただくことをお願いする次第です。

こうして読者には必要なあらゆる準備をしましたので、これ以上前置きを述べることなく、従来のやり方に戻り、目に留まるあらゆる有益なテーマについて私の思うところを述べていくことにします¹⁴⁾。

第557号 1714年6月21日(月曜日)

【アディソン】

テュロス人は二枚舌だ、と恐れ、残酷なユーノへの不安が夜になると繰り返し胸を焼き尽くすように襲う。(ウエルギリウス)¹⁾

プラトンによると、真実を耳にするあるいは語ることほど喜ばしいことはほかにないとのことです²⁾。このため、裏切りの気持ちを持たずに耳を傾け、人を騙すなんてことを考えないで喋る誠実な人との会話ほど快適なものはありません。

12) 『箴言』第9章第14節および第24章第6節。

13) 党派性は女王の健康問題および後継者問題に絡んで1714年夏に頂点に達した。

14) リリーは1714年6月26日付けの手紙を印刷している。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』1.661

2) デイオゲネス・ラエルティオス『著名哲学者の生涯と教説』3.39

カトーについての記述の中でも、プルタルコスが伝えるつぎの一節ほど彼の名誉を高めるものはほかに見当たらないと、私は考えます³⁾。弁論家が、あるプラエトルつまり法務官を前にして依頼人の言い分を弁護しているときに、法律では二人の証言が必要なのに一人しか出せませんでした。そして、この弁論家は彼が連れて来た人物の誠実さを力説しました。すると、法務官は彼に向かって法律では二人の証人を必要としているので、たとえその人がカトーであっても、一人では受け入れられないと語ったのでした。カトーはまだ存命中でしたが、裁判長のこの言説はこの偉大な人物が同時代人たちの間で誠実という点で獲得していた大いなる名声を示す証左となったのです。

こういった確固たる誠実さは会話と正しい作法によって若干緩和されますが、社会的な職務ではさほど際立った美德にはなりません。しかしながら、誠実さから逸脱しないように、美德を損なわないように細心の注意を払うべきです。

わが国の偉大な聖職者はとても優美な説教の中でこのテーマについて見事に触れています⁴⁾。本日の思索の主たる楽しみであるとても興味深い手紙への前置きとして、その説教の一部を書き写したいと思います。

「かつての率直さと誠意、自然のもたらした寛大な誠実さ、正直といったものは、常に心の大きさを示すものであり、ひるむことのない勇気と強固な意志を伴っているものですが、今では大部分が失われてしまっています。

近頃は会話に虚栄とお世辞が蔓延しており、私に言わせると、親切と敬意の表現が氾濫していますので、一昔前の人々が再び現代に復帰したとしますと、自分の言葉を理解し、飛び交っている言い回しの本来の真の意味を理解するためには辞書が必要になるに違いありません。そして、一般に行われている現行の支払におけるあらん限りの思いやりの表現はほとんど信じられないでしょう。さらに理解するようになって、落ち着きを取り戻して対等な条件で話をするようになるにはしばらく時間がかかるに違いありません」。

私の手元にとっても興味深く、偉大な聖職者から引用した上述の内容の例証として役立つ一通の手紙があります。この手紙はチャールズ2世の治世に、バンタムの大使がわが国に着任後間もなくして書いたということです⁵⁾。

王様

当地の人々は、ロンドンからバンタムの距離よりもかけ離れた、心にもないことを口にします。彼らはわが国ではどんな様子なのか分かっていません。彼らは王様や王様の臣下のことを野蛮人と言います。なぜなら、私たちが本音を口にすることからということです。そして、自分たちを文明人と言います。その理由は本音とは別のことを口にすることからというわけです。彼らに言わせると、真実は粗野であり、欺瞞は礼儀正しさということです。私が初めてこの地に足を踏み入れましたとき、私を出迎えるためにこの地の国王から派遣さ

3) プルタルコス「小カトー」19.4

4) 1691年から94年までカンタベリー大主教を務めたジョン・ティロットソンのこと。

5) バンタムはバタヴィアの西約50マイルのところにある重要な貿易港。1682年5月に大使がやって来た。

れた人が、私に「航海中に嵐に遭遇された由心からお見舞い申し上げます」と口にしました。私の話とその人が歎き悲しんでいるのを知って私はやきもきしました。しかし、15分もたたないうちに、彼はまるで何もなかったかのように快活になったのです。この人に同行していた別人は、通訳によると、「どんなことでも喜んでお役に立ちたいと思います」と言いました。そこで私は彼に旅行鞆を一つ持って欲しいと頼みました。すると、約束とは違って、彼は笑いながら別人にやらせたのでした。最初の1週間は、ある人の家に滞在しましたが、その家の主は「自分の家と思ってくつろいでください」と言いました。そこで、私は翌朝、新鮮な空気を入れ、王様へのプレゼントにしようとした家庭用品を詰め込むために壁の一部を取り払いかけました。しかし、不実な従僕は、私が作業に取り掛かろうとしているのを見ると、他人の家でそんなことをされては困りますと言うのでした。この国にやって来てほどなくして、国王の召使の頭である、この国では大蔵卿と呼ばれる方から私の世話をするように仰せつかっている人物から、「あなたのご親切は永久に忘れません」と告げられました。私は彼の感謝の気持ちにとっても驚きましたので、「人が人のために一生をかけてできるほどのどんな奉仕があるのですか」言わざるを得ませんでした。しかしながら、私は見返りとして滞在中、彼の長女をお借りしたいと依頼しました。だが、彼もまた、他の人たちと同様にあてにならないことがすぐに判明しました。

宮廷に初めて出向きましたとき、ある高官から偶然私の足を踏んだだけで何度も何度も謝られて当惑しました。彼らはこの類いの虚言をお世辞と言います。彼らは偉い人に礼儀正しくするときには、真実を語りません。王様ならそんなことをすれば役人に即座にしゃべ返しを言い渡されることでしょう。彼らのことはほとんど信用できませんので、どうやって話をすればよいか私は途方に暮れています。国王の代書人に会いに行きますと、つい今しがた自宅に入って行くのを見掛けたはずなのに、大概留守にしていると告げられます。この国の人たちは全員お医者さんなのです。なぜなら、彼らはいつも最初に「いかがですか」と尋ねるのですから。1日にこの質問を受ける回数は数知れません。いやむしろ、彼らは私の健康状態をしきりに知りたがるだけでなく、食卓を共にするたびに、彼らはグラスを片手にして、私にもお酒を勧めてもったいぶって私の健康を願うわけです。経験上から気分が悪くなるほど大量に勧めて来ます。彼らはさかんに私のために乾杯をしているふりをしていますが、彼らの気持ちよりも王様の幸せを願いたいと思います。私としましては、この二枚舌の人々の元から無事に脱出して、再び王様の保護下にあるバンタムに身を置きたいと願っている次第です。

草々

第558号 1714年6月23日(水曜日)

【アディソン】

マケーナスよ、なぜ人は自ら選んだにしろ
偶然そうなったにしろ割り当てられた運命には満足せずに、
人のしていることばかり羨むのだ。

「^{ふなびと}船人達が羨ましい」と苦しく長い年月の労苦のために
手や足の萎えた兵士はいうだろう。

それとは逆に、南風に翻弄される船上の貿易商にいわせれば
「兵士の方がまだました。なぜかといえば、戦いが^{ひとたび}一度起これば、
いつ速く死が一瞬にして訪れるかあるいは、勝利に酔えるからだ」。
また、法律の専門家は早暁、^{とり}鶏の鳴く前に相談人に起こされて、
「百姓の方がまだました」と田園生活に憧れる。

しかし、出頭保証金を支払い、遙々田舎から引っ張り出された百姓は
「都会に住んでいる奴はうまくやっている」などという。

いくらでもあるこの例を次々挙げれば、饒舌なファビウスですら、
その舌が草臥れてしまうことだろう。

つづめて言えば私のいいたい所はこうなのだ。

もし、ある神が現れて「よし、このわしがたった今、望みを
すべて叶えてやる。兵士のお前は商人に、弁護士お前は百姓に
立場をかえて、お互いに君はこっちに、お前はそちらに
それぞれ移れ」といったとする。

「一体、どうしてお前らは動かずじっとしているのだ」。
誰も動こうとはしない。なろうと思えば、幸福になれる
というのにどうしてだ。(ホラティウス)¹⁾

もし人が皆それぞれの不幸を持ち寄って全員で等しく分配しようとしたら、今自分が一番不幸だと思っている人たちは、分配が始まるまでに持って来た自分の不幸をそのまま持ち帰るだろうというのは、よく知られたソクラテスの考えです²⁾。本日のモットーで挙げたホラティウスも、この考えについて触れています。ここで明らかのように、苦難とか不幸は他人と交換可能であったとしても、自らの抱えているものの方がまだというわけです。

肘掛椅子でこういった意見に思いを馳せていたとき、知らぬ間に眠り込んでしまいました。すると、突然、全員自らの苦難と不幸を持参して積み上げるようにとのユピテルからの布告がなされたようでした。そのための場所として広々とした平地が指定されました。私はその中央に陣取り、人々が次々にやって来て荷を下ろしている様子をととても楽しく眺めました。するとその荷は瞬く間に雲を突き抜けるかと思えるほどの巨大な山となりました。

ひとりの痩せて軽やかな婦人が真剣に動き回っている姿が目に残りました。彼女は片手に拡大鏡を持ち、友人や亡霊の姿を刺繍した、ゆったりとした長いローブを纏っていま

1) ホラティウス『諷刺』1.1.1-19。この訳は鈴木一郎訳『ホラティウス全集』（玉川大学出版部、2001年）を借用。

2) プルタルコス「アポロニウスへの慰めの手紙」『モラリア』106 B

した。この友人や亡霊は、このローブが風にそよぐと、夥しい奇想天外な姿になるのです。彼女の表情にはどこか狂気じみて取り乱したところが伺えました。彼女の名前は「空想」³⁾でした。彼女はお節介にも一人一人の荷造りの面倒を見て、肩に背負わせてから、定められた場所まで連れて行きました。人々がそれぞれの荷に苦しんでいるのを見て、目の当たりにする人々の苦難の大きさを考えると、何とも知れない哀れみの気持ちが湧いてきました。

しかしながら、このとき大きな気晴らしを与えてくれる人たちが数人いました。ある人は荷物をとても注意深く古びた刺繍入りのマントで隠して持ち込んでいました。その人が荷物を山に積み上げたとき、それが貧困であると分かりました。またある人は大きく息を吐いて投げ捨てました。よく見て見ると、それは妻でした。

矢や炎からなるとても風変わりな荷物を背負った恋人たちが大勢いました。しかし、とても奇妙なことに、彼らはこの不幸で悲しみに打ちひしがれているかのように溜息をつくのですが、いざ投げ捨てるとなると、それが出来ませんでした。気の入らない努力を何回かしたあとで、首を横に振ってそのまま重い荷物を背負って立ち去りました。大勢の老婆は皺を、娘の何人かは黄褐色の皮膚を投げ捨てていました。大量の赤い鼻、大きな唇、ポロポロの歯がありました。実は、山の大部分が身体的な欠陥であることを知って驚きました。異常に大きな荷を背負って山に向かって進んでいる人がいましたが、近づいて来ますと、それは持って生まれたこぶであることが分かりました。彼はそれをとても嬉しそうに不幸の山に捨てました。実体よりも架空の物の方が多いと言わざるを得ませんが、同様にありとあらゆる種類の心身の不調がありました。人間に降りかかるあらゆる病気の要因となり、大勢の高潔な人々が手にしている小さな包みに目を留めざるを得ませんでした。これは「憂鬱」⁴⁾でした。しかし、私が一番驚いたことは、悪徳とか愚行が一つも投げ捨てられなかったことです。これには非常に驚きました。そして、誰もがこの機会を利用して、情熱、偏見、そして弱さを追い払っているのだと考えました。

中でも大変な放蕩者に目が留まりました。彼は罪を背負ってやって来たことは間違い無いのですが、彼の荷物を調べて見ますと、彼は罪ではなく思い出だけを捨てたのでした。彼の後には見下げ果てた、ならず者がいましたが、この男は無知ではなく謙虚を投げ捨てたのでした。

このように、人々が荷物を投げ捨てていたとき、とても忙しくしていた幻影が、様子を暇そうに観察している私を見つけて、近づいて来ました。私は彼女の存在に心が落ち着かなくなりました。すると突如、彼女は私の眼前に拡大鏡を差し出しました。そこに映し出された自分の顔が短いことを知って飛び上がりました。どうしてもなく苛立つほど短く見えたのです。極端に短い顔を見て不機嫌になり、まるで仮面でもあるかのようにそれを捨てました。とても幸運なことに、偶然私の隣には長過ぎると思われる顔をいましがた投

3) 「空想」については、第514号参照。

4) 「憂鬱」については、第53号参照。

げ捨てた人物がいました。その人の顔は確かにみっともないぐらい長いものでした。控え目に言っても、顎が顔と同じくらい長いのです。私たち二人は顔を改良する機会を手にしたのです。この機会に乗じて、誰もが自らの不幸を他人の不幸と自由に交換することが出来ました。私の空想の続きでは新たな出来事が生じましたが、それについては紙面を改めたいと思います。

第559号 1714年6月25日（金曜日）

【アディソン】

ユピテルの神が、両頬を怒りでプツと膨らませ

「今後、私はお前らの願ひ事には、簡単に

耳をかさぬ」と宣うのも当然至極というべきだ。（ホラティウス）¹⁾

前回の紙面では、読者の皆さんに人々を苦しめる不幸で作られた山の眺めをお伝えしました。このようにして悲しみから救い出される人々を、私は口では表現できないほどの喜びを持って眺めました。私たちはその山の周りに陣取り、それが何で出来ているのか調べました。そこには夥しい人々がいましたが、人生の喜びや祝福と考えられることを見出さなかった人は稀でした。喜びや祝福の所有者がどうしてそれらを重荷や苦痛とみなしてやって来たのか不思議に思いました。

この乱雑な不幸、混沌とした不幸を注意深く見ていましたら、ユピテルが皆自由に自身の苦しみを交換して、交換した荷物を持って帰ってよいと第二の布告を發しました。

すると、空想が再び行動を開始して、信じられないほど活発に山を小分けにして、皆にそれぞれ荷物を振り分けました。このときの慌しさと混乱状態は言葉で言い表すことは不可能でした。このとき私の目に留まった点をいくつか皆さんにお伝えしたいと思います。見たところ、相続人を欲しがっていると思われる胆汁を捨てた尊敬すべき白髪まじりの人物は激怒した父親から捨てられた親不孝者の息子をひっつかみました。この礼儀をわきまえない若者は、15分もしないうちに、老紳士の顎鬚を引っ張り、もう少しで殴りかからんばかりになりました。そこで、かっとなって近づいて来た実父を見掛けると、この老紳士は彼に息子を連れ帰り、自分の胆汁は返して欲しいと頼みました。しかし、二人とも自分たちの選択を撤回することが出来ませんでした。鎖を捨てた哀れなガレー船の奴隷は代わりに痛風に罹り、誰が見ても交換で得をしたとは思えないほどの歪んだ表情をしていました。そこで行われている貧困と病氣、食欲不振と飢え、苦痛と世話などの交換を目にするのはとても愉快的なことでした。

女性陣は慌ただしく容貌の交換をしていました。白髪と赤褐色の髪を交換している人がいましたし、寸胴と猫背を交換している人もいました。またある人はひどいご面相と忘れられた評判と交換していました。しかし、いずれの場合にも、誰もが交換するとすぐに、

1) ホラティウス『諷刺』1.1.20-22。この訳も前号と同様に、鈴木訳を借用。

それが以前のものよりも嫌な欠陥だと思っただけでした。ほかのあらゆる不幸や苦難についても同じことが言えました。私たちの身に降りかかる不幸が各自に見合ったものであるのか、それとも不幸は慣れることで我慢できるようになるのか、私は判断しないことにします。

心情的には、前回触れた気の毒な猫背の紳士に対する憐憫を抑えることは出来ませんでした。彼は膀胱結石の姿のよい人物と交換しました。取引を始めたこの紳士は、肩を怒らせてもてはやされていた婦人たちの中をよたよたと歩むことはありませんでした。

私自身の冒険を省くわけにはいきません。私の短い顔を友人の長い顔と交換しました。しかし交換して見ると友人がとても異様に見え、それを見るや私は落ち着きをなくして笑い出してしまいました。気の毒な友人はこの笑いの意味がよく分かっていました。彼は自分のやったことを恥じていたのです。他方、私にも得意がる理由がないことに気づきました。なぜなら、額に触れようとしたら、場所を間違えて上唇に当たってしまったからです。おまけに、鼻が高いものですから、顔のどこかを触ろうとしますと、鼻に何度か当たりうまくいかなかったのです。ほかにも傍らには私と同様に滑稽な状態になっている紳士が二人いました。この二人はずんぐりした蟹股と痩せ細ったふくらはぎの長い棒のような足と交換したのです。一人はまるで竹馬で歩いているようであり、とても背が高くなり、くるりと向きが変わるのです。一方は、歩こうとするときこちなく円を描き、新たに獲得した足でどうやって前進したらいいか分かりませんでした。彼が感じのよい人物だと分かったので、ステッキを地面に立ててワインを用意してあげると言いました。すると、彼はステッキのところまでまっすぐにやって来なかったので、15分して私の方から近づいて行ったのです。

やっと不幸の山が男女間で配分されました。彼らがそれぞれの重荷を背負って右往左往しているさまは実に哀れな光景でした。辺り一帯には、不平不満、悲嘆の声が充満しました。哀れな人間たちに同情したユピテルは、ついに、元の荷物を背負わせようとして、もう一度今背負っている荷物を捨てるようにと命じました。人々は大喜びでその荷物を下ろしました。そして、人々をひどく惑わせていた幻影に姿を消すようにと申し渡しました。幻影の代わりに姿のまったく異なった女神が送り込まれました。彼女の身振りは安定して落ち着いており、表情は厳粛ですが快活でした。彼女は時々天に目をやり、ユピテルをじっと見つめました。彼女の名前は「忍耐」と言いました。彼女が悲しみの山のそばに身を置くとすぐに、注目に値することですが、その山の全体が大きく崩れて、元の3分の1ほどになりました。その後、彼女は皆に元の不幸を背負わせて、うまく耐える方法を教えました。人々は自ら選択した不幸ではなく、元の不幸を運命として持ち帰ることに満足して立ち去りました。

私は、この幻から描き出されたいくつかの教訓以外に、誰にも他人の苦しみは正しく理解できないので、自らの不幸を嘆いたり、他人の幸せを羨んだりしてはいけないのだということを学びました。そしてまた、他人の不満を軽んじるのではなく、人々の悲しみを慈愛と思いやりの気持ちで接することにしました。